



TITLE:

花山第6回談話會記事

AUTHOR(S):

CITATION:

花山第6回談話會記事. 天界 1936, 17(189): 92-92

ISSUE DATE:

1936-12-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167398>

RIGHT:

花 山 第 6 回 談 話 會 記 事

11月18日午後2時より、花山天文臺圖書室に於て

出席者＝山本、稻葉、柴田、公文、堀井、荒木(九)、高倉、荒木(健)、
高城、木邊、山本(進)。

(講演 1)、公文武彦氏：——太陽系附近の遮光物質 (9月のつき)

視差による方法は、材料の不備のため、幾分の不完全をまぬがれないので、これとは全く獨立に、固有運動による方法で check する。3807個の6等級より明るい星について、main direction をとると C_7-C_{12} 域から、 D_1-D_6 域に向つて減少し、narrower direction をとると、 C_8-C_{11} 域から D_2-D_5 域に向つて減少してゐる結果となり、視差による結果とよく一致する。即ち、わが太陽系の極めて近くに遮光物質が存在する。従つて、太陽系は暗黒星雲の中を運動してゐる。故に、彗星や流星の如き hyperbolic velocity を有するものゝ origin はこの dark nebulae であらうか。最近 H. N. Russell 氏もこの點にふれてゐる。

(講演 2)、木邊成麿：——U Gem. 型變星觀測結果

1933年12月より1936年9月まで、32機反射機で觀測された同氏の結果概報であつた。プラトカタログより擇んだ50星を眼視觀測した結果は、26個の Positive Effect を得た由で Maximum の値を得たのは22星であつて、1回以上の Max. が19星、1回のもので3星である。22星の中 Estimation の行はれた数は364で9～20回の觀測をなした。今後この種變星の type の分類、週期、振幅を充分研究する要がある。

(講演 3)、山本教授：——最近の子午線天文學

昨年パリ1に行はれた第5回國際天文同盟總會を中心としての、子午線觀測上の協定事項の説明あり、即ち、1938.0年(1月1日)よりは恒星位置は1950年の春分點を用ふる事が決定された。尙最近の天文曆では、獨逸ではアウエルス氏の Fund. Katalog III (1500星) が1940年より使用され、米國ではダドレイ天文臺から General Catalogue (32000星) が近々發行される事となつた。